

連なる「和 문화」の楽しさ

「とにかく学生のころは、今しかできない、やってみないとわからない、と思っただけです」。日本の伝統文化に関心を寄せ、茶道、歌舞伎、能、日舞、雅楽、それに平安期の歌謡・今様・多しときには八つ掛け持ちで習っていたと笑う。なかでも常磐津は「名取」の資格を持つほど。これらの知識と人脈を総動員して、ジャンルをこえたイベントをプロデュースするとともに、茶道や今様などの講座を開いている。

型の文化に触れようと、大学生のときは、南座（京都市東山区）でアルバイトをしながら、多くの歌舞伎の舞台を見るだけでなく、全国各地の舞台へ足を運んだ。縁あって上七軒のお茶屋でもアルバイトをし、女将さんやお客さんから、しきたりや芸事について教わった。「このときに体験したことは、今も伝統文化を考え、プロデュースするときの「根拠」にもなっているんです」

茶会のホスト側を体験した後は「生活やものの見方が変わってきた」と参加者にも好評だという。さまざま伝統文化を深く知るうちに、各分野が根底で通じ合っているのを感じたようになった。たとえば、香木をたいて楽しむ香道では香りに和歌や歌謡にちなんだ名前がつけられているが、それらは、能や歌舞伎の題材にもつながっている。「一つの言葉を取ってみても、分野の異なる多くの文化に連なることがわかります。当時の人は幅広い知識と教養を共有し、レベルの高い遊びをしていたんです」

伝統文化プロデューサー

濱崎 加奈子さん

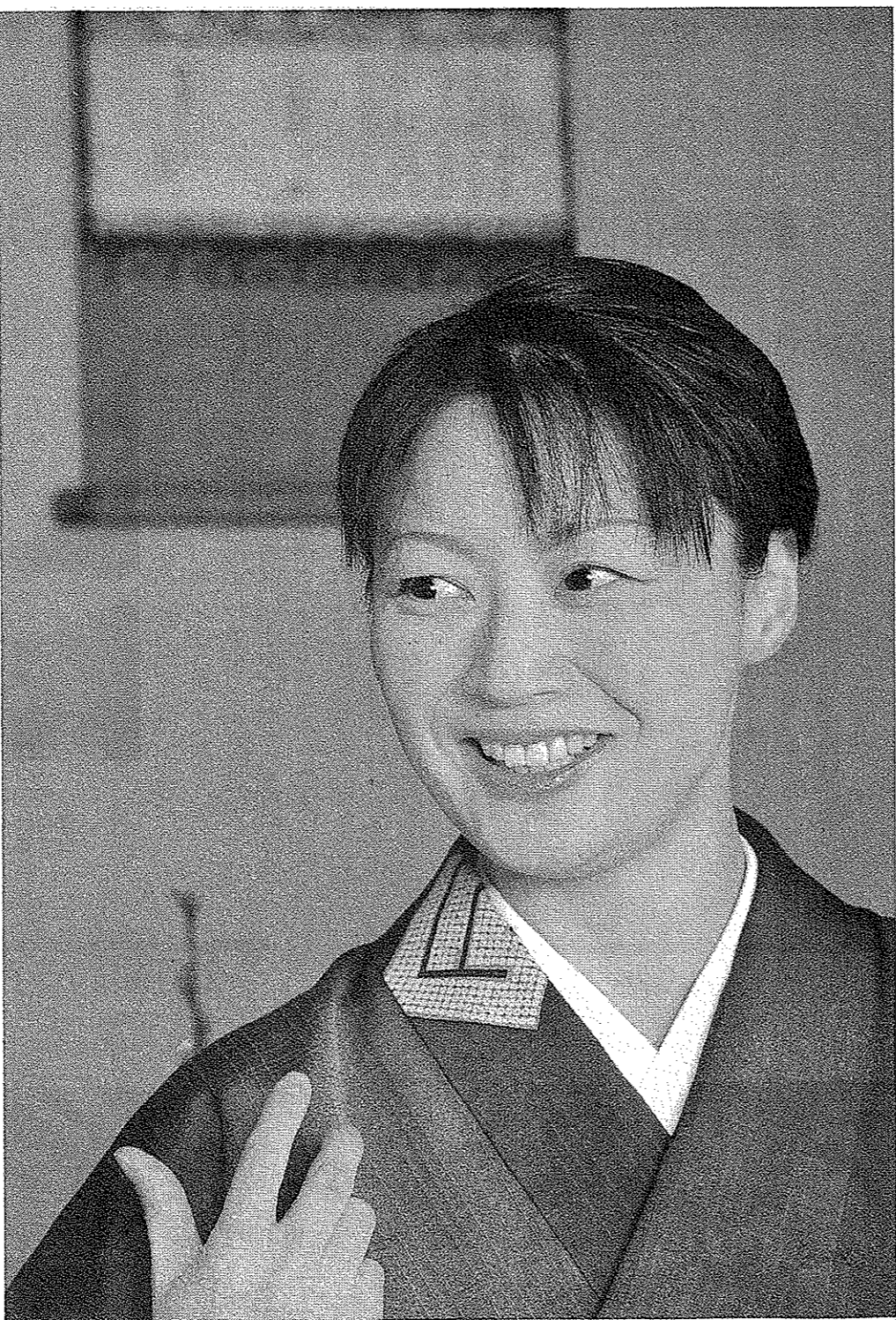
文化や人の連なりを回復させたい思いを込めて命名した。活動の拠点は右京区嵯峨野の町家。初心者にも気軽に参加してもらえるように講座の料金は最低ラインに抑えている。「運営費も出ないくらい」だが、「波及効果を考えればそれでいい」と屈託ない。「伝統文化に高い壁を感じている人は多い。私も京都で多くの方に教えてもらうことで、自然と壁が取り払われていった。こうした体験を、皆さんにもしてもらいたいと思っただけです」

持ち前の探究心で培った経験とセンスを糧に、「連」なることで深まる文化の楽しさを発信したい。その思いは着実に実を結びつつある。

「今様合わせ」と呼ばれる連歌の会を催したときは、「友だちを半分だまして参加させました」。今様をまったく知らない人にも楽しく参加してほしかったからという

はまさき・かなこ 神戸市生まれ。京都大卒。東京大博士課程修了。学術博士。大学在学中に歌舞伎の舞台やお茶屋さんの手伝い、邦楽邦舞の実践を通し、日本の伝統文化のとりことなる。2003年、「連REN」設立。展覧会やイベント等のプロデュースを手がける。京都女子大、京都精華大非常勤講師、同志社大特別講師、京都工芸繊維大伝統みらい研究センター特任准教授。「伝統文化プロデュース 連」代表。http://www.ren-produce.com/

おこわり 27日付土曜版は休みます。



旬なひと

マイあぐる



京都工芸繊維大
伝統みらい研究
センター長
濱田泰以さん(53)

現場と研究者のパイプ役

伝統みらい研究センター お願いしていて、現場の方は、たとえば「美しい袱紗、さばきはなぜ美しいのか」を数値化できれば、効率よい物作りにも役立てるので、と研究者の意思疎通の橋渡し役でもあります。技術や文化も優れていて、たなくては後世に残りませんと。ビジネス面でももちろん、お手本を見せてもらったとやっというふうには、その理由の説明などをの姿勢に共感しています。

文・河合篤子(ライター) 写真・井上匠編集委員

あすの 日曜版

- ソフィアがやってきた! 京都女子中学校
- 学び かがくのじかん
- ポップくんの空とぶ日記
- 漢字塾 ■ 「花のき村と盗人たち」
- アニマルうんちく学・シロアリ

